

活動報告：ぶんぶんひろば

1 活動のねらい

ぶんぶんひろばの活動は平成22年のセンター開設以来9年が経過した。設立時からぶんぶんひろばの活動のねらいは3つある。1つ目は、就学前の子どもとその家族への子育て支援の場の提供、2つ目は、本学で学ぶ学生の教育の場としての活用、3つ目は研究活動である。近年、本学は「対人援助のプロを育てる」というコンセプトのもとに日々の教育を行ってきた。このセンターが位置する広島 長東キャンパスには、大学の学芸学部（2学科）、大学院教育学研究科及び短期大学の3学科があり、学生の多くは教育職、保育職、栄養士等の対人援助職を目指している。2つ目のねらいを達成するために、本センターは重要な施設となっている。また地域貢献も本学教育の特色の1つである。週2回子育て中の家族にひろばを開放しており、子育て家族の姿を、キャンパス内で目にすることは、学生たちにとって良い体験となっている。それぞれの学科の目標を達成するためにこのセンターの存在が役立っているといえる。ねらいの3つ目は研究であるが、なかでも子育て支援に関する研究は昨今の社会状況から必要とされ、急がれるものである。各学科から選出された教員はそれぞれの研究課題を持ちより、この領域の研究が進むよう協働して取り組んでいる。



写真1 広場スタッフ（保育士）作成の遊具①

2 活動の内容

(1) 地域貢献としての活動

令和元年度（4月のみ平成31年）の実施回数は66回であった。参加の状況を表1に示す。のべ参加人数は2454人であり、一日の平均参加組数は17.8組であった。通常開催のぶんぶんひろばとは別に、音楽会や離乳食の講習会、公開講座などがあり、それらを合計すると3141人の参加となる。

(2) 教育における活用

週2回のぶんぶんひろば以外に、授業での利用は次のようであった。前期には演奏活動で8回（音楽学科）、後期には演奏活動で6回（音楽学科）、保育実践演習で2回（子ども学科）、親子ふれあい教室を前期に1回（4日間）、後期に1回（4日間）（子ども学科）おこなった。栄養指導各論実習Ⅱで1回（短大：食物栄養学科）の利用があった。また、総合子ども学Ⅱ（子ども学科）では、子育て支援の場所として、子育て支援のための遊具や設備面の配慮を学び、「初めて体験した」「有意義だった」との感想が得られた。保育学科では「赤ちゃんふれあい体験」（1年生）を実施した。

短大保育学科学生の「保育技術サークル」は手遊びと絵本の読み聞かせ活動を火曜日の昼休みに継続的に実施した。

（文責：田頭 伸子）



写真2 広場スタッフ（保育士）作成の遊具②

表1 令和元年度 ぶんぶんひろば実施回数と利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
実施回数	6	8	7	7	3	2	8	8	6	7	4	66
利用組数	60	113	118	165	56	40	136	108	125	115	101	1137
平均利用組数	10	14.1	16.9	23.6	18.7	20	17	13.5	20.8	16.4	25.3	17.8
利用者数	子ども	68	125	138	193	65	51	166	125	141	126	1307
	大人	63	114	119	169	56	41	137	109	125	116	1147
	合計（人）	131	239	257	362	121	92	303	234	266	242	2454